



光の子だより

令和7年10月31日
千葉市立作新小学校
校長 金谷 英味

学校教育目標:一人一人のちがいを大切にし「かしこく あたたかく たくましい」子どもの育成

芸術の秋・スポーツの秋・読書の秋

暑さから解放され、朝晩は冷え込みを感じるようになりましたが、日中は過ごしやすい季節となりました。先日、気象予報士が「日本の夏は1か月早く来て、1か月遅くまでいるようになった。その分、春と秋は短くなった。」と言っており、まさにその通りだなと思いました。私が中学生だったとき、その当時の担任に「1年で最も、活動しやすく、集中して学習できるのは、春の20日間と秋の20日間だと言われている。毎年、その40日間を見逃さず、どう過ごすかが大事だ。」と言われました。大人になり、その言葉の意味がよくわかるようになりました。秋に学校行事や各地の行事が多いのもうなずける気がします。しかし、春と秋が短くなってしまったため、その40日間を感じるのは難しくなってきているように感じます。

学校では、子どもたちに芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋を実感でき、色々なことを感じ取ってもらえるよう、下記のような取り組みをこの時期に行っています。

【落語教室】芸術の秋



長作公民館から紹介を受け、NPO法人フォーエヴァーさんが寄席を開いていただきました。

映像や動画などの目で見る情報に慣れている子どもたちにとっては、少し難しい点もあったかと思います。演者さんが「おーい」と手招きをして声を発すると、子どもたちが一斉に後ろを向いてしまうこともあります。話と身振り手振りだけで人物や場面の様子を想像して、楽しむよい機会になったと思います。幕間には「南京玉すだれ」を子どもたちにも教えてください、変化する様子に盛り上がっていました。



【ミュージカル「オズの魔法使い」鑑賞】芸術の秋

今年の芸術鑑賞会は、毎年のPTAからの補助金に加え、50周年記念としての補助金をいただいたため、例年よりも少しバージョンを上げることができました。子どもたちはすぐに「オズの世界」へと引き込まれ、歓声をあげたり、拍手をしたりと、目を輝かせて観ていました。鑑賞後、子どもたちに感想を尋ねると、「初めて生でミュージカルを観た」、「将来、劇団員さんみたいに演劇がしてみたくなった」という子が多くいました。また「体育館が別の場所みたいになっていて驚いた」という子もあり、舞台設定や大道具、照明の素晴らしさにも心を動かされていたようです。体育館後方にもサブステージを作り、演技をしてくださったため、高学年も間近で観ることができ、ありがとうございました。将来、本校から舞台役者が出てかもしれません。



【新体力テスト】スポーツの秋



毎年、体力テストが行われています。作新小では、ペア学年で組になって実施しています。

下学年の子は、上學年のお兄さんお姉さんから声援を受け、必死に頑張ります。上學年は下学年によいところを見せたいといつも以上に頑張ります。とても微笑ましい光景です。

【読書クイズ郵便】読書の秋

子どもたちが楽しみながら本に親しんでもらえるよう、図書委員の児童や図書館指導員などがいろいろなイベントを考え、取り組んでいます。今回は本の分類番号や登場人物、内容などを紹介し、その本を見つけ、タイトルを当てもらうという活動です。図書はがきに上記のことを記入し、図書室のポストに投函し、ペアの子や友達に送ります。手紙を送る楽しさ、受け取るわくわくを感じながら取り組んでいます。私にも届くかなあ~。

